

登録コード	T1B04300	開講年度	2026				
授業科目	分子工学演習(16T以降)				担当教員	酒井 俊郎 他	
英文授業名	Molecular Engineering Exercise				副担当	奥村 幸久・戸田 泰徳・田中 伸明・岡田 友彦・佐伯 大輔	
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生	物質化学科3年生
講義室	工C3-202教室		授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				⇔	【授業の達成目標】	
	2 5Tカリ, 2 3Tカリ						
	【22T～】専門的学力を基礎とし、的確な情報を収集・理解し、これを他の人に発信できる能力が身についている。				⇔	専門的学力を基礎とし、的確な情報を収集・理解し、これを他の人に発信できる能力が身についている。	
	【22T～】様々な課題を見つけ取り組む力が身についている。				⇔	様々な課題を見つけ取り組む力が身についている。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本授業では分子工学プログラム所属の各教員の教育研究分野について学んだ上で、与えられた課題を調査し、レポート、プレゼンテーション等を行う。						
(5)授業計画	第1回(10/1)：ガイダンス(担当：酒井) 第2回(10/8)：講義：コロイド・界面化学を基盤としたナノ材料創製(担当：酒井) 第3回(10/15)：課題調査内容の発表(担当：酒井) 第4回(10/25)：講義：液晶(担当：酒井) 第5回(10/29)：課題調査内容の発表(担当：酒井) 第6回(11/5)：講義：分子触媒化学(担当：戸田) 第7回(11/12)：課題調査内容の発表(担当：戸田) 第8回(11/19)：講義：電子励起状態分子の挙動(担当：田中) 第9回(12/3)：課題調査内容の発表(担当：田中) 第10回(12/10)：講義：分子集合体化学(担当：奥村) 第11回(12/17)：課題調査内容の発表(担当：奥村) 第12回(12/24)：講義：膜分離工学(担当：佐伯) 第13回(1/7)：課題調査内容の発表(担当：佐伯) 第14回(1/14)：講義：新しい吸着剤・固体触媒の設計(担当：岡田) 第15回(1/21)：課題調査内容の発表(担当：岡田) (授業アンケートの実施)						
(6)成績評価の方法	全ての講義・演習に出席し、課題(レポート・プレゼンテーション)を遺漏なく提出・実施した者を評価の対象とし、各授業毎に課した課題(レポート、プレゼンテーション)について各教員が評価を行い、この合計点をもって成績評価を行う。具体的には、各教員の評価点を合計し、これを100点満点に換算する。90点以上を秀, 80点以上90点未満を優, 70点以上80点未満を良, 60点以上70点未満を可, 50点以上60点未満を不可(D), 50点未満を不可(F)とする。出欠は出席確認システムで確認すると同時に講義開始時に各教員が確認する。						
(7)成績評価の基準	評定については、次の評価基準を基本としている。 秀：授業の達成目標の水準から見て卓越している。 優：授業の達成目標の水準よりかなり上にある。 良：授業の達成目標の水準よりやや上にある。 可：授業の達成目標の水準にある。 不可(D)：授業の達成目標の水準よりやや下にある。 不可(F)：授業の達成目標の水準にない。 課題(レポート・プレゼンテーション) (i)課題の目的が十分理解できており、(ii)その課題を適切な資料を用いて調査できており、(iii)その調査結果を簡潔かつ適切にまとめることできており、(iv)それらの調査結果から当該分野における問題点や課題などが指摘されており、(v)その上で自分の見解を提示できており、かつ、(vi)教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	与えられた課題を調査し、レポート、プレゼンテーションに関する準備を充分おこなうこと。						
(9)履修上の注意	2, 3年次の必修科目、プログラム科目の復習をしておくこと。						
(10)質問,相談への対応	質問,相談には時間の許す限り応じる。メールにより、アポイントメントをとり、来室することが好ましい。メールアドレスはHPにて確認のこと。						
(11)その他							
【教科書】	指定しない						
【参考書】	指定しない						